平成25年度「岐阜県ふるさと教育週間」実施報告書

学 校 名	岐阜県立東濃特別支援学校	
実 施 期 間	平成25年10月22日(火)~11月2日(土)	
実 施 概 要	窯まつりの公開	
	・「窯まつり」は本校の一大行事であり、本校の教育の特徴でもある、小	•
	中・高等部の一貫した粘土教育の成果の発表の場である。「窯まつり」は	Z
	向けた児童生徒の活動を公開した。	
	・陶芸実技コーナー、茶道部のお茶会コーナー等において、保護者や地域	或
	の方々、協力していただくボランティアの方と交流した。	· /- -
	・本校の教育活動や障がい児に対する啓発活動として、作業製品の販売等を通した作業学習等の活動を公開した。	宇
実施内容	学習・取組の分野	
20 20 19 1	□自然 □歴史 ■文化 □産業 ■その他	
	公開の方法	
	□授業公開 ■成果発表 ■交流活動 □講演会等	
	□地域行事等参加 □その他	
来校者数	保護者 約400人 計 約600人	
	地域関係者約200人	
実施 状況	①火入れ式	
	・テーマソングに合わせて、児童生徒がダンスを踊った。	
	・火の神から学年代表の児童生徒が火を分けてもらい、それぞれが作った	<u>-</u>
	レンガ窯に点火した。	
	②窯まつり ・火入れ式で火を入れたレンガ窯からの窯出しを行い、それぞれの作品を	٤.
	・	
	いただき、灰を取り除いた。	
	- ・中学部、高等部の作業製品バザーを行い、保護者をはじめとして、地域	或
	の方々や卒業生等、多数の来校者に製品を購入していただいた。中学部	33
	のバザーには、土岐津中学校の保護者がボランティアとして参加し、則	反
	売等の手伝いをしていただいた。	
	・児童生徒の作品や、交流校の作品を展示する作品展示を行い、本校にお	ં
	ける粘土教育や作業学習の様子等を紹介した。	
	・本校職員やボランティアの多治見工業高等学校の生徒が講師となり、オ	E
	│ 校者に陶芸実技を体験をしていただいた。 │ │・小学部の児童は、窯出しの後に、学年ごとにポップコーン作り等の活動	.
	- ・小子部の元里は、無面しの後に、子中ことにホッノューン作り寺の福男 - やスタンプラリーを行った。	λIJ
	、ハフマファファでロッパ。 ・午後は、全校児童生徒によるドリームフェスティバルを実施し、学部こ	_n
	とにダンスやマスゲーム(フラッグ・一輪車・ドリル等)の演技を披露	
	した。	

成果及び課題

- ・最近は児童生徒数が200人前後で推移しているため、300人近くいた頃と比較すると、来客数がやや少なく感じる。しかし逆に、以前のようにごった返して混乱すことがなくなり、落ち着いてゆったり過ごせるようになっている。
- ・午前中に実施する中学部、高等部の作業製品の販売や、小学部のポップ コーン作りやスタンプラリーなどの活動、午後に実施するドリームフェ スティバルでの発表を通して、児童生徒が生き生きとした表情で活動す る姿を、保護者をはじめ地域の方々に見ていただくことができた。
- ・ボランティアの方々の参加も定着し、多くの協力を得て活動を成功させることができた。また、多くの場面で、本校の児童生徒とボランティアの方々の交流が行われた。
- ・作品展示や作業製品の販売などを通して、本校の教育活動を外部の方々 に知っていただく貴重な機会となった。
- ・卒業生やその家族も数多く来校し、旧友や学校職員との交流を楽しみに しており、卒業生の交流の場としても重要であるとともに、卒業生の現 状を知ることができるので、進路支援の側面からも重要な行事である。